



令和元年8月8日

東かがわ市議会議員

橋本 守 様

東かがわ市議会議員
(会派・個人・その他)

氏名 大田稔子



行政視察等報告書

1	日 時	令和元年8月5日～令和元年8月6日	
2	参加者	田中貞男 大田稔子 工藤正和 朝川弘規 堤 弘行 中川利雄 橋本 守	
3	研修目的等	内 容	研修場所
		①高座施設組合温水プール	海老名市高座施設組合(市役所)
		②奨学金制度について	海老名市市役所 委員会室
		③日本橋小学校屋内プール	中央区日本橋小学校
④香川県アンテナショップ視察	新橋 瀬戸内旬彩館		
4	研修・調査内容	別 紙	
5	研修成果	別 紙	
6	費 用	45,583円	

※領収書(交通費・宿泊費の明細が分かるもの)、研修資料を添付してください。

行政視察報告書

同志会 大田稔子

小学校プール廃止に伴う市営プール活用について

【研修・調査内容】

- ・高座施設組合温水プールが作られた経緯
健康増進をはかりレクリエーションの場、コミュニケーションの場として幅広く利用できる健康福祉型の施設として屋内温水プールを平成5年6月にオープン。
- ・事業費 約15億円
- ・財源 国庫補助金・県補助金・組合債・一般財源
- ・管理形態 指定管理者（期間は5年間、設備・ソフト）
従業員 約50名、常時は15名。

海老名市屋内プール水泳学習事業

・海老名市の概要

人口約13万3千人 面積26,59km²
小学校13校・児童数約7,200人
中学校6校・生徒数約3,500人

小中学校プールの廃止の理由と効果について

廃止の検討の理由

- ・全国的に学校プールの安全性が問われる⇒児童・生徒への安全面。
- ・屋外プールが使用できる期間が短い⇒天候に左右される。先生方の管理の難しさ。
- ・プールの維持費と老朽化による改修費が多い。

◎以上の面から、学校プールを継続するより市内の公共プールを利用した方が優位であると判断した。

廃止の理由

- ・児童・生徒への安全面・学校プール施設自体の維持管理面・計画的な水泳事業の実施面

廃止効果

- ・指導面の充実・安全面の向上・施設維持管理面の負担軽減等
- ・天候等に関係なく計画的に授業が実施でき、教員はプールの管理の必要がな

く、児童生徒への直接指導時間に振り向けられる。

- ・プール監視員が常駐し、管理体制が万全である。
- ・年間のプール維持管理費が不要。

経費節減について

・建て替え工事費用が不要⇒19校が10年以内に耐用年数を迎える。約1校あたり1億4千万円。

・年間の維持管理費⇒プール使用期間は概ね2ヶ月程度で水道代等の維持管理費不要。

・一定期間の施設改修費⇒概ね10年に1度の再塗装の施設改修費が不要。

屋内プール水泳学習事業費

小学中校水泳指導委託料⇒水泳指導委託料

児童生徒移送用バス借料⇒バス借料

教員が必ず入る。体育の授業として指導。

平成27年度より、中学校は特別支援級のみ実施

各プールの解体後の利用方法

芝生広場、バスケ・テニスコート・駐車場・大型防災備蓄倉庫・ふれあい釣り堀等

【研修成果】

海老名市と本市は、人口・学校数も大幅に異なるが、廃止理由・廃止効果・課題等、大変参考になった。現在、本市には、温水プールが1カ所あるが老朽化による維持管理費の増額等、社会体育施設等マネジメント計画の中では、建て替えの方向である。

床全面可動式プール（ビナスポ）の導入も必要と考える。

民間プールを利用するのであれば、指導は、先生方か、民間のインストラクター等に委託するのか本市としての協議が必要と感じた。

令和2年開校予定の白鳥小中学校の一貫校には、プール設置予定はない。高座施設組合屋内温水プールは約25年経過し、今後建替時には、1箇所では市民の健康増進も考慮しながら、スポーツジム、サウナ、体育館等複合施設を考えているようだ。先進地の課題等も鑑み、本市の今後のプールについて健康増進計画も含めたコンパクトで市民の利便性等も考慮しながら早急に取り組む必要性を再度感じた研修であった。

海老名市奨学金返還補助事業について

【研修・調査内容】

注目されるまちとして海老名市が大躍進!

◆住みたい街 ランキング関東版第 25 位

◆穴場だと思える街 ランキング第 5 位

◆公共交通の充実⇒鉄道 3 路線・バス

目指すべき将来の方向性

- ・若者の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ・まちのかがやきを維持する拠点性を高める
- ・元気な文目のない子ども子育て支援

出会いたい! あなたと海老名市 若者定住!!

若者(学生)定住促進事業

☆奨学金の返還保補助

- ・補助額・・・奨学金返済月額相当の 2 分の 1 (上限 2 万円)
- ・平成 28 年 5 月末・・・プロジェクトチームの発足
- ・平成 29 年 4 月 1 日・・・補助金要綱施行
- ・平成 29 年 6 月 1 日・・・平成 29 年度補助金交付の受付開始

☆若者(学生)定住促進政策パッケージ

～住み続けると得をする切れ目のない支援～

奨学金返還補助事業 (R1 年度)

1. 対象者 市に転入した方および市内在住の方
2. 募集人員 予算の範囲内で実施
3. 補助額 奨学金返済月額相当の 1/2 (月額 2 万円を上限)
4. 補助条件

①市内在住⇒世帯最上位所得者の所得 300 万円以下の制限

②イベント等への積極的な参加と SNS での情報発信

PR 活動⇒HP・広報等での周知・チラシ配布・電車内広告の掲載

実績

平成 29 年度⇒211 名 一人当たりの交付額⇒123,915 円

平成 30 年度⇒287 名 一人当たりの交付額⇒151,439 円

・交付決定者が 76 名増加 一人当たりの交付額 2 万 8 千円増加

・平成 29 年からは 20 代の転入者が、およそ 200 名程増加しており、一定の効果が表れている。

課題

- ・制度設計
- ・予算を今後どういう形で取り定住率に繋げるか。バロメーターになるものがない。

【成果】

海老名市に大学は無いが、近隣に多くの大学等がある。人口減少は大都市も同様である。如何に、自分たちのまちに住んでも貰い住み続けて貰うか工夫しPRしている。本市も若者が大学等進学のため県外に転出し卒業後、故郷に魅力を感じ、戻ってくるようなインパクトのある施策の必要性を感じた。奨学金制度は個人的に、ずっと調査している案件である。海老名市は、2年間のみ補助であるが、本市の奨学金制度そのものや、奨学金返済補助事業等、この度の研修を活かし今後の施策に繋げていきたいと感じた。

東京都内の香川県アンテナショップ視察

【感想】

香川・愛媛 せとうち旬彩館の見学

イベントは、まんのう町のひまわり満開!!夏のひまわりオイルフェアを実施していた。このオイルは購入して使ったが、シンプルな商品であった。令和元年9月までの予定のチラシも作成していて見やすかった。本市の特産品も醤油・和三盆糖等が並んでいたが、商品数を増やしたり、イベントの参加等、PRする必要を感じた。